

国語科学習指導案

4年1組 37名 指導者 赤石裕樹

本授業では、以下のような検証を行うものである。

自分の考えをまとめる到達目標（モデル・字数）を与えることは、子どもが自分の考えを再構築し、簡潔に表現するための手立てとして有効であったか。

1 単元 場面の様子に着目して読み、しょうかいしよう「一つの花」

2 目標

場面の様子に着目して読み、作品にこめられた思いを自分なりに捉え、リーフレットにして友達に紹介することができるようにする。

3 単元の評価規準

○ 「一つ」をテーマにした本を読み、進んで友達に紹介しようとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

○ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読んでいる。 【読む能力】

○ 作品にこめられた作者の思いについて、友達と関わり合いながら読み、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【読む能力】

○ 様子を表す言葉の使い方について関心をもっている。 【言語についての知識・理解・技能】

4 単元について

(1) 単元について

本単元は、自身の体験を生かした戦争にまつわる作品の書き手である今西祐行の代表作「一つの花」を中核教材として扱う。今西祐行氏は、教育雑誌のインタビューにおいて、「文学というのは半分は作者が書き、残りの半分は読者が作り上げるのではないのでしょうか。」と答えているように、作者がものの見方や考え方を押し付けるのではなく、読み手が想像力豊かに、創造的に読むことができるような作品を多く残している。教材「一つの花」は、文末に「～でしょうか。」「かもしれません。」等の表現が使われており、読者が想像力や創造力を働かせて読むことができるようになっている。また、題名「一つの花」と、それに関わって各場面に繰り返し出てくるキーワード「一つ」に注目することで、人物の気持ちや場面の情景を想像しながら読むことができるようになっている。さらに、「一つの花」という題名が象徴するテーマをめぐって、様々な角度から着目することができるため、人との考え方、感じ方の違いに気付き、作品にこめられた思いを、自分なりに捉えることができるようになっている。

そこで本単元では、子どもが作品にこめられた思いを友達と関わり合いながら読み、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにするために、協働的な「学び合い」を中心に据え、小集団や集団で共有化した互いの考えを生かして新たな考えを作り上げることができるようにしたい。協働的な「学び合い」では、リテラチャー・サークルを用いる。まず一人で、共通の話題について、自分の考えをまとめる。次にグループや全体で、それぞれの考えを発表したり、それぞれの考えに質問したりして話し合い、共有化を図る。話し合いでは、自分の考えと友達の意見を比較したり、関連付けて捉え直したりして、新たな考えをつくり上げることができるようにする。最後に一人で、話し合いでの多様な考えを基に、話題に対しての自分の考えをまとめる。その際、自分の考えの根拠を明確にすることで、協働的な「学び合い」によって、自分の考えが広がったり深まったりしたことを実感させたい。

ここでの学習は、特に2学期単元「読んで、考えたことを話し合おう『ごんぎつね』」の学習につながっていく。

(2) 子どもについて

本学級の子どもは、これまで、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら物語を読んだり、場面の移り変わりや登場人物の心情の変化を、叙述を基に想像して読んだりする経験をしてきた。しかし一方で、題名や文章の中に繰り返し出てくるキーワードに着目して作者の思いを読んだ経験は少ない。そこで、本単元では、これまでの学習経験を生かすとともに、作品中に繰り返し用いられている「一つ」というキーワードに着目させ、それをつなぎながら読み、作品にこめられた作者の思いに迫らせたい。また、子どものお大半は、物語を読むことに関心が高く、これまで同一作者による作品を多読してきている。しかし一方で、テーマに沿って本を紹介する活動をしてきた経験は少ない。そこで、「一つ」というキーワードをテーマに沿って本を紹介するという活動を設定することで、日常での読書の世界を広げていきたい。

5 指導計画（総時数 9 時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
つかむ 課題を	1 教材文「一つの花」を読み、題名「一つの花」にこめられた作者の思いを考える。	1
	2 教材文「一つの花」の初発の感想を書き、学習課題を設定し、学習計画を協議する。 「一つ」がキーワードの作品にこめられた作者の思いを読み、リーフレットにして友達にしようかしよう。 【関：「一つ」がキーワードの本を進んで並行読書しようとしている。】	1
情報 を基に 考える	3 教材文「一つの花」の作品全体を捉え、リーフレットの「設定」コーナーを作成する。	1
	4 教材文「一つの花」の戦争中の人物それぞれにとっての「一つ」の意味を読み、リーフレットの「特別な言葉」コーナーを作成する。	2
	5 教材文「一つの花」の戦中と戦後の場面を比較して読み、リーフレットの「感想」コーナーを作成する。	1
	6 教材文「一つの花」の題名にこめられた作者の思いを読み、リーフレットの「テーマ」コーナーを作成する。 【読：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読んでいる。】 【読：作品にこめられた作者の思いについて、友達と関わり合いながら読み、自分の考えを広げたり深めたりしている。】 【言：様子を表す言葉の使い方について関心をもっている。】	1 (本時)
主体的 に 表現 する	7 「一つ」をテーマにした作品ブックリストから、自分の読みたい作品を選び、リーフレットを作成する。	1
	8 読んだ作品毎にグルーピングを行い、作品のテーマについて考えを交流する。 【読：作品にこめられた作者の思いについて、友達と関わり合いながら読み、自分の考えを広げたり深めたりしている。】 【関：友達との読みの交流を通して、読書の楽しさを味わい、読書意欲を高めている。】	1

6 本時（7 / 9）

(1) 目標

これまでの学習を生かしたり、友達と互いの意見を交流したりすることで、題名「一つの花」にこめられた作者の思いについて、自分の考えをもつことができるようにする。

(2) 評価規準

「お父さんやお母さんの思い」と「戦中から戦後が変わったもの『ゆみ子の家族』『ゆみ子の姿』『コスモスの様子』」とを関連付けながら、題名「一つの花」の意味を読んでいる。

【読む能力】

(3) 指導に当たって

まず、「つかむ・見通す」過程では、既習の物語教材の内容とテーマを振り返らせることで、教材「一つの花」には作者のどのような思いがこめられているのか問題意識をもたせると同時に、これまで読んできた「一つ」というキーワードを基に、題名に着目して読むことで本時の課題を解決することができそうだという見通しをもたせる。

次に、「調べる」過程では、「お父さんやお母さんの思い」と「戦中から戦後が変わったもの『ゆみ子の家族』『ゆみ子の姿』『コスモスの様子』」という複数の読みの視点を与えることで、視点を複数関連付けて読むことができるようにする。さらに、リテラチャー・サークル（話題型）の形態を取り入れることによって、一人では気付かない視点や考えに出合わせ、それらを生かして、自分の考えを再構築することができるようにする。

最後に、「まとめる・生かす」過程では、モデル（考えの根拠を明確にすることができるもの）と字数の目安（150字程度）を与えることで、再構築した自分の考えを150字程度で簡潔にまとめることができるようにするとともに、協働的な「学び合い」のよさを実感させるようにする。さらに、題名に気を付けて読むことで、作者の思いに迫ることができるということを確認することで、今後の日常の読書生活に生かすことができるようにする。

(4) 本時の展開

□ 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○ 指導の手立て ※ 評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	7	1 前時までの学習を振り返る。 ・ 家族が三人から二人に変わったな。 ・ ゆみ子が「一つだけ」と言わなくなったな。 ・ コスモスの花がいっぱいになったな。 2 本時のめあてを確認する。 作品のテーマを読むためには、どのように読めばよいだろうか。 3 教師の補説を聞き、学習の進め方に見通しをもつ。 ・ 「一つ」がヒントになりそうだよね。作者は題名をなぜ、「一つの花」にしたのかな。	○ これまでの学習経過を計画表や紙板書に残しておくことで、前時までの学習を振り返りやすくし、本時の学習に生かすことができるようにする。 ○ 既習の文学作品の内容とテーマを振り返らせることで、教材「一つの花」にこめられた作者の思いへの問題意識を喚起する。 ○ 「一つ」というキーワードから題名に着目させることで、本時の学習に見通しをもつことができるようにする。
調べる	3	4 テーマについて考える。 関連付ける 話題：作者は題名をなぜ「一つの花」にしたのだろうか。 (1) 自分なりの考えをまとめる。 A児 【一人で：7分】 ・ 「一つの花」には、命の大切さがこめられていると思う。それは、ゆみ子のことを大切に思うお父さんを亡くした、ゆみ子の家族構成が変化したから。 (2) グループでそれぞれの考えを交流する。 B児 【グループで：8分】 ・ Aさんの考えに付け足して、「美しい心を大切にしてほしい」というお父さんの願いも伝えたかったのではないかな。 (3) 全体で各グループの考えを交流する。 【全体で：6分】 (4) 交流を通して深まった自分の考えを150字程度でまとめる。【一人で：7分】 A児 【付加の例】 命や美しい心が大切だということを伝えたかったのではないかなと思う。それは、ゆみ子のことを大切に思うお父さんを亡くしたゆみ子の家族構成の変化や、戦争に行く前に「一つの花」にこめた「美しい心を大切にしてほしい」というお父さんの願いどおりにゆみ子が成長した姿から。	○ 「お父さんやお母さんの思い」と「戦中から戦後に変わったもの」という複数の読みの視点を与えることで、視点を複数関連付けて読むことができるようにする。 ○ リテラチャー・サークル（話題型）の形態を取り入れることで、多様な視点や考えに気付かせ、自分の考えを再構築することができるようにする。 ※ 「お父さんやお母さんの思い」と「戦中から戦後に変わったもの『ゆみ子の家族』『ゆみ子の姿』『コスモスの様子』」とを関連付けながら、題名「一つの花」の意味を読んでいる。 (ワークシートへの記述の観察・分析) ○ 作者の思いを読むことができている子どもには、関連付けていない視点も加えて考えさせるようにする。 ○ 作者の思いを読むことができていない子どもには、教師が視点を絞って与えるようにする。
まとめる・生かす	5	5 本時の学習の振り返りをする。 【作者の思いを読むためには】 ・ 題名に気を付けて読むとよい。 ・ 繰り返し使われている言葉に着目し、それらをつないで読むとよい。 6 次時の学習を確認する。 ・ わたしのお気に入りの「かたあしだちょうのエルフ」でリーフレットを作り、テーマについて話し合いをしたいな。	○ 自分の考えを発表し、交流し合うことで、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いたり、互いの読みのよさを認めたりすることができるようにする。 ○ 題名に気を付けて読むことが、文学的な文章の読み方の一つの方法であることを確認することで、今後の読書活動に生かすことができるようにする。 ○ 次時の学習の確認を行うことで、意欲を高めるようにする。